

|     |   |    |         |     |         |    |    |    |            |
|-----|---|----|---------|-----|---------|----|----|----|------------|
| No. | ⑱ | 分類 | 2-(1)-ア | 資料名 | 釜石からの発信 | 学年 | 3年 | 領域 | 特別活動(学級活動) |
|-----|---|----|---------|-----|---------|----|----|----|------------|

### 1 ねらい

- 生命の尊重を最優先として、状況に応じて自分なら何ができるか、何をしなければならないかを考え、主体的に行動しようとする意識を高める。

### 2 趣旨

- 岩手県釜石市では、地震について教科等学校生活全般を通して学んでいる。東日本大震災における津波発生時、普段からの防災教育の教えを忠実に守り、「率先避難者」となった中学生の行動について理解させる。
- 災害時には、「自分の命は自分で守る」という考え方を基本としながら、「助けられる人から助ける人へ」の自覚をもたせ、社会的弱者に目を向け、自他の生命を尊重できるようにさせる。そのためには、普段から様々な場面で生命の尊重を意識できる環境づくりが大切である。

### 3 配慮事項

- 震災により避難してきている生徒がいれば、状況を把握し、必要に応じて配慮をする。

### 4 展開例

| 学 習 内 容  | 指 導 上 の 留 意 点   |
|--|---|
| <p>1 東日本大震災について想起する。</p> <p>2 地震が起きたらどんな行動をとるか考える。(意識確認)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・机の下に隠れる。</li> <li>・すぐに安全な場所へ逃げる。</li> <li>・家にいる場合は家族を探す。</li> </ul> <p>3 釜石東中学校の生徒の行動を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○福祉施設にたどり着いた場面までを読む。</li> <li>○地震直後の生徒たちの行動を確認する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・揺れている最中から自分の意志で逃げ出した。</li> <li>・小学校に向かって叫びながら避難した。</li> <li>・教頭先生の指示で、福祉施設まで逃げた。</li> </ul> </li> <li>○後半部分を読む。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・活用の手引き P38の参考資料等によって具体的な数字や写真資料によって説明したい。</li> <li>・そうする理由も発表させる。その後どうする？どこに逃げる？どこを探す？という質問をしてもよい。</li> <li>・マニュアルにとらわれず、自分の意志で逃げた行動を評価しつつ、避難訓練の約束事を守ることを否定しないようにする。</li> <li>・前年に小学校と合同で避難訓練をしていたことが生かされたことに気づかせたい。</li> </ul> |
| <p style="text-align: center;">釜石東中学校の生徒はどうして自分の命を守ることができたのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれが自分の判断で行動した。</li> <li>・災害時に自分の取るべき行動を、普段の避難訓練の時から真剣に考えて訓練に臨んでいた。</li> <li>・友だちや先生、家族との間に信頼関係があった。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「先生ここじゃダメだ。」という生徒の言葉に注目させ、生徒が自分で観察し判断する力が備わっていることを認識させる。</li> <li>・「ぼうさい甲子園」で優秀賞をとるなど普段から高い意識で取り組んでいたことを認識させる。</li> <li>・釜石東中学校の生徒たちが、周りの人たちを手助けしながら一緒に逃げていたことに気づかせる。</li> </ul>  |
| <p>4 釜石市の取組について考える。</p> <p style="text-align: center;">「釜石の奇跡」と言われることをあなたはどのように思いますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・やっぱり奇跡に近いことだ。</li> <li>・普段から真剣に訓練を行い、自分の身は自分で守った結果だから奇跡ではなく当然の結果だ。</li> <li>・普段からの信頼関係が生んだものであり、奇跡でも偶然でもない。</li> </ul> <p>5 自分や他の人の命を守るために、普段から心掛けることは何かを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・避難訓練などに真剣に取り組む。</li> <li>・人に対して思いやりをもち、協力して暮らす。</li> <li>・交通ルールを守るなどできることは実行する。</li> </ul>                         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・釜石市の中学生たちの行動についてあらためて評価したい。</li> <li>・「てんでんこ」の難しさを認識させたいうえで、それを可能にしたものは何かを考え、「奇跡」ではないことを確認させる。</li> <li>・今の自分の生活をふり返り、具体的な行動について考えさせたい。</li> <li>・被災地の復興はまだ途上で、被災者が体調を崩すなどの問題もあり、継続的な取組が必要であることを認識させたい。</li> </ul>              |

### 5 参考

- 「兵庫の防災教育 明日に生きる」(平成 25 年 兵庫県教育委員会)を参考とすることができる。

|          | 阪神・淡路大震災                   | 東日本大震災   |
|----------|----------------------------|--|
| 発生日時     | 平成7年1月17日(火)5時46分          | 平成23年3月11日(金)14時46分                              |
| マグニチュード  | 7.3                        | 9.0  |
| 地震型      | 直下型                        | 海溝型  |
| 被災地      | 都市部中心                      | 農林水産地域中心   |
| 震度6弱以上県数 | 1県(兵庫)                     | 8県(宮城、福島、茨城、栃木、岩手、群馬、埼玉、千葉)                      |
| 津波       | 数10cmの津波の報告あり、被害なし         | 各地で大津波を観測(最大波 相馬9.3m以上、宮古8.5m以上、大船渡8.0m以上)       |
| 被害の特徴    | 建築物の倒壊<br>長田区を中心に大規模火災が発生  | 大津波により、沿岸部で甚大な被害が発生、多数の地域が壊滅                     |
| 死者       | 6,434名<br>(平成18年5月19日現在)   | 18,703名<br>(平成25年9月1日現在)                         |
| 行方不明者    | 3名<br>(平成18年5月19日現在)       | 2,674名<br>(平成25年9月1日現在)                          |
| 住家被害(全壊) | 104,906棟<br>(平成18年5月19日現在) | 126,574棟<br>(平成25年9月1日現在)                        |
| 災害救助法の適用 | 25市町(2府県)                  | 241市区町村(10都県)<br>※長野県北部を震源とする地震で適用された4市町村(2県)を含む |
| 被害額      | 9兆9,268億円<br>(平成7年4月5日推計)  | 16兆9千億円<br>(平成23年10月28日推計)                       |

(内閣府「中央防災会議第1回防災対策推進会議」(平成23年10月28日)資料から)  
 ※東日本大震災における死者、行方不明者、住家被害(全壊)については、消防庁災害対策本部「平成23(2011)年東北地方太平洋沖地震(東日本大震災)について(第148報)」(平成25年9月9日)により時点修正を行った。



津波に襲われる釜石市港町



3階に軽乗用車がつきささった鶴住居小学校



被災後、校庭が瓦礫置き場となった釜石東中学校

写真提供：Yahoo！JAPAN  
 「東日本大震災 写真保存プロジェクト」

### 1.17 防災未来賞 ぼうさい甲子園

阪神・淡路大震災の経験と教訓を未来に向かって継承していくため、学校や地域で防災教育や防災活動に取り組んでいる子どもや学生を顕彰する事業です。

阪神・淡路大震災10周年を機に、平成16年度から、兵庫県、公益財団法人ひょうご震災記念21世紀研究機構、毎日新聞社の主催で行われています。